

令和元年度庄原市幼保小連携・接続に係る研修会

令和元年 8 月 20 日（火） 庄原市総合体育館

幼児期の教育の特質や内容等について理解を深め、スタートカリキュラムの充実を図ることにより、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図ることを目的に、研修会を行いました。

【講話・協議】「幼保小連携と接続の推進に向けて」

広島県教育委員会 乳幼児教育支援センター 指導主事 末岡 信子



◆現在求められている幼保小の連携・接続や、幼児期と児童期の学びをつなぐことについて講話を行いました。

【参加者の声】

- ・保育所での体験や経験は、小学校での学ぶ意欲につながっていることがよく分かった。特に入学当初は、その気持ちを大切にしなければならなかったと感じた。
- ・保育所での学びが小学校での生活や授業に生かされていくことから、保育所では多くの体験ができるよう環境を設定していかなければいけないと思った。
- ・スムーズな連携・接続のために保小の職員同士の交流の場を多くもつことが大切だと感じた。

【幼保小連携推進担当教員対象 講話・演習】「スタートカリキュラムの作成・改善について」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 小谷 綾子



◆来年度から実施するスタートカリキュラムの年間計画と週計画の作成演習を行いました。

【参加者の声】

- ・保小連携で年長児の様子を見せてもらっているのでも、その様子も踏まえながらスタートカリキュラムを作成していきたい。
- ・スタートカリキュラムは、年度当初に作って完成ではなく、児童の実態や状況に応じて加筆・修正する必要があると分かった。

【保育所長対象 講話・協議】「保小接続に向けたアプローチカリキュラムについて」

広島県教育委員会 乳幼児教育支援センター 主査 古和 友子
幼児教育アドバイザー 神田 留美



◆「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に向けたアプローチカリキュラムの作成・実施について講話・協議を行いました。

【参加者の声】

- ・これまで作っていた計画とは質の異なるもので、子供の姿を具体的に書いていくものだということが理解できた。
- ・具体的に子供の活動や姿をしっかりと見て記録し、小学校へつなげたいと思った。

【参加者の振り返りより】

- ・他の学校がどのようにスタートカリキュラムを作成しているのか、情報を交流することができたのでよかった。
- ・幼保小連携を通して、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの交流が定期的にできたらいいと思う。
- ・これから保育所と小学校が各々取り組んでいく中で、互いの取組を学び合うような機会も今後あればいいと思う。